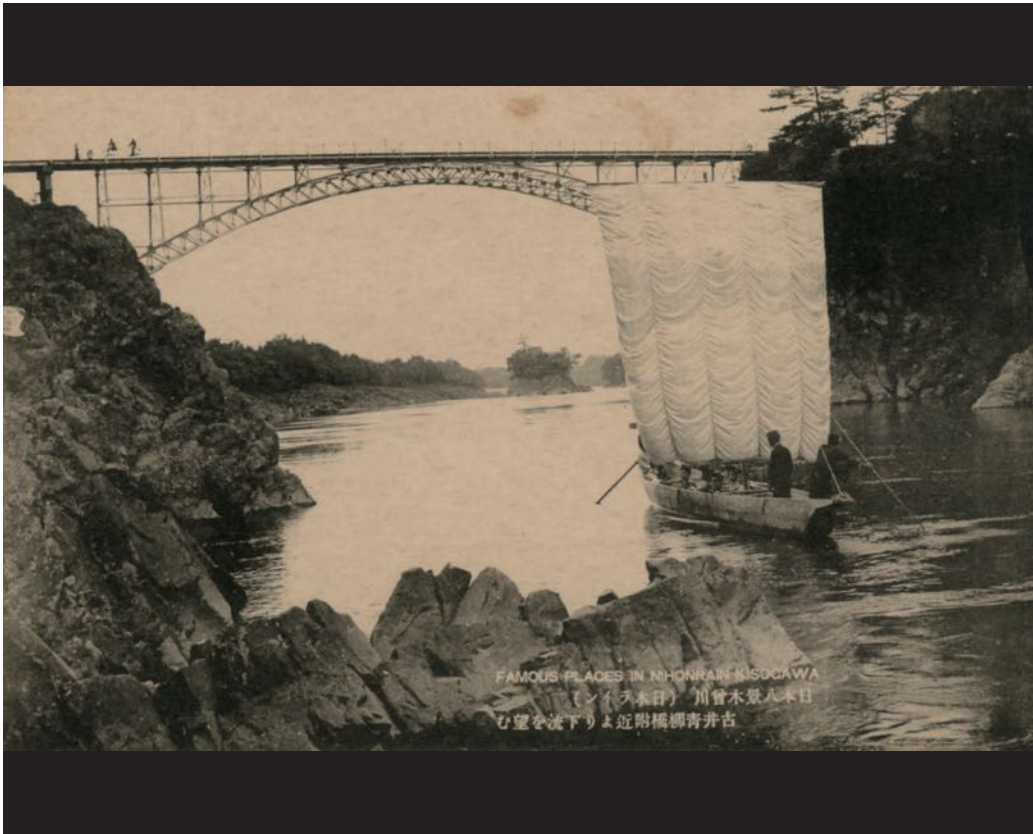


## 書かれた「この地」を読む

## 📖 みのかもブックマーク



▲『日本八景木曾川(日本ライン)古井青柳橋附近より下流を望む』

## 北原白秋の来訪(1) 「日本ライン」

北原白秋は、昭和初期に2度、美濃加茂を訪れました。1度目は昭和2年です。この年、東京日日新聞と大阪毎日新聞が観光ブームを背景に日本各地の景勝を「日本新八景」として選定する企画を興します。その河川部門第1位に木曾川が選ばれたのです。新聞紙上では新八景の紀行文を連載、木曾川を担当したのが白秋でした。この紀行文で白秋は、木曾川で乗船した体験記を書き、木曾川の美観を色彩豊かに描写しています。犬山から車で太田宿に入った白秋らは、土田のライン遊園に行く途中、あえて迂回し上流へ向かいました。ストップ！古井の白い鉄橋の上で、私は驚いて自動車を飛び降りた。その相迫った峡谷の翠の深さ、水の碧くて豊かさ。何とまた鬱蒼として幽邃な下手の一つ小島の風致であらう。

この時、白秋が思わず車を停めて見たいと願った景色とは、青柳橋から見た小山観音の眺めでした。この文章を含む「日本ライン」は『旅窓読本(学芸社・1936年刊)』に、「旅窓読本」は『白秋全集22巻(岩波書店・1986年刊)』に収録されています。



▲北原白秋(公益財団法人 北原白秋生家記念財団所蔵)

きたはらはくしゅう  
北原白秋(1885-1942)

近代日本を代表する詩人、歌人。本名は隆吉。福岡県出身で早稲田大学英文科予科中退。代表作に詩集『邪宗門』、抒情小曲集『思ひ出』など。大正時代中頃からは童謡の創作にも力を注いだ。

📍みのかも文化の森 ☎28-1110